

絵本や文字板の利用

漢字を与える材料として、まず絵本があります。絵のところに、その絵に当たる語を漢字で書いておくという方法があります。

動物絵本や、乗り物絵本などがよいと思います。「犬・猫・馬・牛・猿・熊・象……」「汽車・電車・自動車・自転車・三輪車・飛行機・汽船……」というような漢字が考えられます。

子どもが漢字を指して「これなあに」と尋ねてくれれば、教えるのは最も理想的です。しかし、押し付けにならないように、「この猫の絵のそばにある字はね、“ねこ”と読む字なのよ」と軽く、お話をするようになつもりで、つけ加える程度でも十分です。

そうすれば、子どもの方から、「じゃあ、犬のそばのこの字は、“いぬ”と読むのね」というように、むしろ自分から発見していくものです。

ご存じのように、幼児が、かなを覚えるためのおもちゃとして、“文字板”というものがあります。犬の絵が表にあると、その裏に“い”というかな文字があるものです。

このかなの部分に、紙を貼りつけて、“犬”という漢字を書き入れる

のです。

絵本にせよ、文字板にせよ、長い間に、ひとりでの覚えるのが理想です。「早く覚えたものは早く忘れやすい」という言葉を思い出して、読めるようになるのを気長に待つことです。

「まだ読めないの」などということは、おとなが心の中で思うことも厳禁です。わたしどもの経験では、そういう気持があっては、この教育は絶対に成功しません。しかも、教えるということにせっかちな親が多いものです。この教育熱心で誤りがちな親の感受が、どんなに子どもの正常な成長を妨げていることか。この漢字による教育は、正しく実施された時には、すばらしい効果がありますが、反対に幼児の口をねじあけて、食べものを詰め込むような誤った方法をとるならば、せっかくの苦心も逆効果になってしまいます。

子どもは常に背のびし、おとなになりたがっているものです。おとなのようにしたいのです。ですから、子どもが新しく漢字を読んだ時には、「お母さんと同じように読めるのね」と言って褒めてやることです。それは、読むことに対する子どもの興味を増し、読字力の増大に一層輪をかけます。